

G-TECH

RUFの経験を活かした フィアット系チューナー

フィアットやアバルトを鍛えるチューナーとして急速に認知度を得たG-TECHは、お得意のアバルト500をチョップドルー化したスポーツスターGTを持ってやってきた。同時にG-TECHの創立者であるヘルムート・ギースル氏が来日。元RUFで鍛えられた技術を余すことなくフィアットへと注入していること、今後、アルファロメオへの進出をも企んでいることなどを明かした。今年中にもG-TECH製のアルファ4Cがお目見えの予定である。



SKY FORGED

アズール(空色)から 発達したホイール



輸入車販売やカスタムに長けたアズールモータリングがデザインプロデュースする、新たなホイールブランド「SKY FORGED」が発進した。会場ではSKYや、またazure(=空色)を体現するようなカイエンと共にホイールを公開。スポークの数により複数銘柄が出揃い、またリム部分にある程度自由に選べるよう複数色が用意された。目の覚めるような色使いは観客の注目を集めた。

HAMANN

過激で高品質な ハーマンの世界



BMWばかりか世界中のクルマを過激に仕立てるハーマンから今年は、ワイドボディキットをまとうM6ベースの「Mirror」と、そして発売以来大好評を博してきたイヴォーク・クーペのプログラムが登場。いずれもハーマンらしさを体現するような独特のスタイリングを持って会場を魅了する様子を見るに、彼らの快進撃は今後も続きそうである。



CARBON REVOLUTION

常識を覆すカーボンホイール

ホイール業界の常識を覆す軽量炭素繊維(カーボン)素材を実用化させたブランド。昨年はボルシェ 997GT3に組み合わせて出展していたが、今年からはBMW M3が展示されていた。フロント255/35ZR19、リヤ295/30ZR19サイズ。優れた軽量性能のみならず、アルミに比べ3倍以上の強度を持つなどメリットは計り知れない。



CRIMSON

ネオクラシックが描くアプローチ

新しいモデルにちょっぴりレトロなホイールを。それがクリムソンのネオクラシックブランド「RS」だ。今回、A-REALのエアロをまとったF30型3シリーズに前後20インチの「RS CV WIRE」が装着された。絶妙なコンケイブ具合やフェンダーとのクリアランスが美しい。懐かしい風情のメッシュながらも、とても新鮮に見える。



GOLDMAN CRUISE

比類無き日本品質でランクルを染める

ホイールの老舗クリムソンに、ボディパーツはDAMD、メイド・イン・ジャパン品質でトヨタ(レクサス)製SUVを彩るゴールドマンクルーズ。ここに来て100系のランクルがデビューして話題を呼んだ。内容はレクサス調のフロントバンパーにオーバーフェンダー、お得意のホイールなど。そのホイールは新作TITANの22インチとなる。



3D Design

日本のチューニング 技術で鍛え上げる



日本発のBMWチューナー「3Dデザイン」は、いつもユーザーニーズを的確に捉えた商品展開を行う。今年は早くも435iのMスポーツにコンプリートカーを用意したほか、M6グランクーペや3シリーズGTも同時出展した。常に最新型を用意することで市場を牽引する勢いを持つ。レーシングパーツも豊富に用意する本格派だ。

VOSSEN

世界を魅了する コンケイブ



VOSSEN(ヴォッセン)はカウンタープレッシャー(差圧鋳造法)を用いて、極限まで突き詰めたコンケイブデザインを具現してきた。そしてこのAS Sportのエアロをまとうアウディ S5スポーツバックに組み合わされるのは、PRECISION SERIESの20インチ。前後とも11Jで、285サイズのタイヤを組み合わせる。そのフィッティングには脱帽である。